

沼津市

明治史料館通信

2008.7.25 (季刊 年4回発行) Vol. 24 No. 2 通巻第94号



宮川保全の肖像画(鱧利彦画)
(宮川裕佑氏寄贈)

沼津兵学校出身者には教育者になつた者が少なくない。そのうち官立ではなく私学の教育・経営に力を注いだ者としては、何といつても江原素六が筆頭にあげられるが、ここで紹介する宮川保全(一八五二〜一九二二)は江原に継ぐ代表的存在である。

宮川は、幕臣山崎幸之助(三輪之助ともいう)の子として江戸で生まれ、元治元年(一八六四)九月宮川家を継ぐ。維新に際し沼津に移住、明治四年(一八七二)三月沼津兵学校第七期資業生に及第した。実兄山崎塊一(釦平、一八四五〜一九一九)も沼津に移住し、兵学校生徒から沼津病院頭取杉田玄端の門下生に転じ医学を学んだ。

兵学校廃止後に編入された教導団を退団した宮川は、文部省に入り長崎師範学校や東京女子師範学校に勤務した。担当教科は数学で、義兄(妻の兄)であり、沼津兵学校時代の恩師でもある榎本長裕の

シリーズ
沼津兵学校とその人材

宮川保全と共立女子職業学校

84

校訂で『幾何新論』『三角新論』などを刊行した。沼津を去って久しかったが、両書には「沼津宮川保全訳」と印刷されており、沼津兵学校出身であることを誇りにしていたようすがうかがえる。

明治十九年（一八八六）東京女子師範学校を退職、女性のための実業教育を行いたいという希望のもと、三〇数名の発起人とともに

私立の共立女子職業学校（現共立女子大学）を開校した。発起人には、手島精一・矢野二郎・富田鉄之助・永井久一郎（荷風の父）・那珂通世・中川謙二郎・鳩山春子といった教育界の有力者のほか、三田葆光（女子師範教諭、沼津兵学校資生三田佑の父）、愛知すみ子（女子師範雇、兵学校第四期資生愛知信元の近親者か）など、沼津・旧幕臣の関係者が含まれた。

同校は、裁縫・編物・刺繍・造花などを主要科目とし、職業人として自立した女性を育てることを目的にした。宮川は理事・商議員・校長補などとして長く同校の経営を実質的に担い、大正五年（一九一六）からは正しくなるまで校長（第

五代）をつとめた。明治四五年（一九一二）にはその功勞に対し藍綬褒章が授与されたが、文部大臣からは「女子職業教育ノ先覚者」「真ニ教育者ノ模楷」であるとの讃辞が寄せられた。

共立女子職業学校の役員・教職員の中には、宮川らしい沼津兵学校の人脈が見受けられる。

裁縫科担当の術科教員に関ヨシという女性がいたが、彼女は沼津兵学校第四期資生出身で東京女子師範学校や女子師範予備学校の教師になった関近義の妻である。宮川は明治一二年四月に設置を依頼した女子師範予備学校（私立）の発起者五名の一人であり、関にとつて女子師範以来の同僚・同志であった。ちなみに、関が校訂し愛知信元が編集した書籍として『簿記教授本』（明治一三年刊）があるほか、愛知・宮川共編の『小学算教授書』（明治二年刊）という書籍もある。宮川・愛知・関は沼津兵学校で学んだ数学で結び付いた仲間であった。近義・ヨシ夫妻の息子関一は、東京高等商業学校教授から大阪市長となったが、宮

川の三男敬三は東京高商に進学しその教えを受けた。

事務員をつとめた中島鍋次郎（旧名屋代淳之丞）は、沼津兵学校第四期資生生島準の兄弟だったらしい。彰義隊に所属し箱館戦争に参加した経歴を持つ。生島は関近義にとつて兵学校の同窓であり、かつ数学の師でもあった。

明治四〇年代からは監事に真野文二が加わっている。真野は沼津兵学校附属小学校生徒出身者であったが、当時文部省実業学務局長であり、共立女子職業学校にとつては強力な味方だった。

なお、宮川保全の実兄山崎塊一は東京で日進堂という薬局を経営し実業家として成功した。「日進堂」の看板は勝海舟が揮毫したものであったという。実業教育にも熱心で、明治一四年薬種業従事者のために東京芝区巴町の鞆絵学校内に夜学を開き、中川謙二郎・成瀬隆蔵らを講師に招聘したほか、一七年には東京商業学校校長矢野二郎・同教諭成瀬隆蔵らと謀り、京橋区木挽町に商業学予備校を開いた。成瀬は弟宮川と沼津兵学校第七期の同

期生だったし、中川・矢野もみな共通する人脈である。

兄山崎が教育にも理解がある実業家だったのに対し、弟宮川は実業界へも活躍の場を広げた教育家であったといえる。宮川は中央堂という出版社を経営したほか、旧幕臣佐久間貞一とともに教科書販売会社である大日本図書会社を設立、専務取締役となったのである。他にも東京書籍株式会社取締役・東京書籍商組合副頭取・東京商業会議所議員などを歴任した。

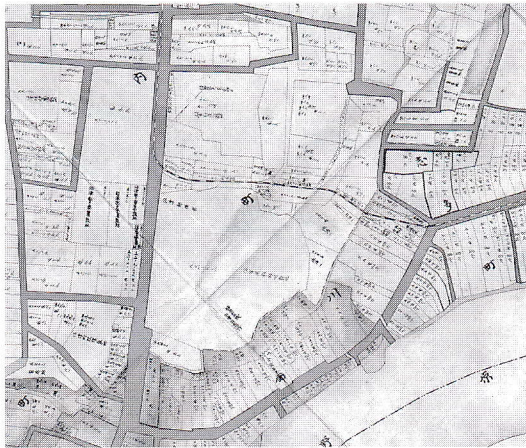
東京の谷中霊園には山崎・宮川両家の墓が並んで位置する。

〈参考文献〉『人事興信録』初版（一九〇三年）、『私立共立女子職業学校第十八年報』、『私立共立女子職業学校第二十五年報』、『東洋実業家評伝』第貳編、『彰義隊戦史』、『同方会誌』三八、宮川敬一郎『宮川敬三・千代追想』（一九八五年、私家版）、関博士論文編集委員会『都市政策の理論と実際』、『東京教育史資料大系』第三巻、『共立女子学園百年史』〈協力者・敬称略〉宮川裕佑・小立千恵子・町田さと・吉田洋史・川合滋（樋口雄彦）

ぬまづ近代史点描 ⑥⑥

県内初の電車 駿豆電気鉄道

沼津には二つの県内初の鉄道があった。ひとつは明治二〇年（一八八七）に敷設された県内初の鉄道「蛇松線」であり、もうひとつが「チンチン電車」の愛称で親しまれた、同三九年に開通した県内初（全国では九番目）の電車「駿豆電気鉄道」である。駿豆電気株式会社（同二九年創立）が開業した。同社は函南町平井の柿沢川に水力発電所を建設して、こちらも



大正3年 沼津町市街全図(部分)
(佐藤繁氏寄贈)



昭和30年頃 大手町交差点
(当館所蔵)

川橋・臼井産業前・国立病院前・長沢・八幡・玉井寺前・伏見・千貫樋・木町・三島六反田の一九ヶ所に設けられ、

県内初の電灯会社として開業した。全国的な傾向として、当時の電灯会社の多くが、自社の電気を動力として鉄道事業を兼業するようになり、同社も三八年に鉄道事業へ乗りだすことを表明した。三九年の駿豆電気鉄道株式会社への社名変更と前後して、沼津停車場前―三島六反田（現三島広小路）間の軌道敷設工事が進められ、同年一月一〇日に竣工、同月二八日に開業した。

停留所は、沼津停車場前・追手町・志多町・三枚橋・平町・山王前・麻糸前・石田・黄瀬川・黄瀬

開業時は沼津―六反田間を約四分で運行した。（昭和に入ってから三島町―沼津間が二七分になった）

駿豆電気鉄道株式会社は明治四五年に豆相鉄道（三島町―大仁間）を買収したが、大正五年（一九一六）に富士水力電気株式会社に合併されて同社鉄道部となり、翌年独立して駿豆鉄道株式会社となった。その後昭和一三年、駿豆鉄道箱根遊船株式会社、同一五年、駿豆鉄道株式会社となり、昭和三二年に伊豆箱根鉄道株式会社となった。

昭和初期、各地でバスが台頭したが、駿豆線は乗客が多く順調だった。戦時中には、定員増加のためにシートがとりはずされたり、女性が電車を運転したりということもあった。戦後は、農家への買出しなどで終日混雑したという。昭和三〇年代に入ると、バス路線に乗客をとられるようになり、昭和三六年六月二八日の台風で黄瀬川橋が流失してしまい、電車は三島広小路―国立病院前のみとなり、沼津―国立病院前はバスによ

る代替輸送となった。残った三島側も三八年二月四日に廃線となった。

さて、停留所が示すように電車は概ね東海道を通っていた。三島六反田付近の路線の変更については知られているが、沼津でもルート変更があった。

昭和期、沼津停車場を出た電車は、南下して大手町交差点を東に曲がっており、その軌道が写った写真も残っているが、開業当時は国道一号線は未だ東海道ルートだったため、大手町の交差点も存在していない。開業からしばらくの間、沼津停車場前を出発した電車は、南に進んで郵便局（大正二年の大火後に新築）の北側あたりを東に曲がっていた。大正中頃、大手町付近の国道一号線が開通し、現在の旧国道一号線のルートになり、その後、軌道が敷き直され、チンチン電車は大手町交差点を曲がるようになった。

〔参考文献〕『鉄道ピクトリアル』通巻第一四五号（一九六三年）、森信勝『静岡県鉄道興亡史』静岡新聞社（一九九七年）

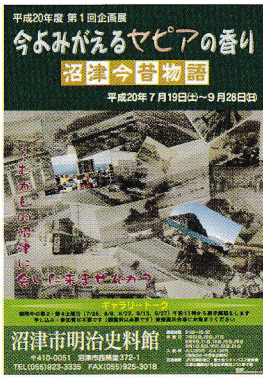
お知らせ欄

◎「今よみがえるセピアの香り 沼津今昔物語」の開催

江戸時代以来、城下町・宿場町として発展してきた沼津は、明治・大正・昭和を経て、時代とともに大きく変化し続けています。

今回の企画展では、館所蔵や市民から提供されたものを中心に、沼津市全域の約100ヶ所の古写真124点と、同じ場所の現在の姿を並べて展示し、かつての風景がどう変わったかが一目でわかる写真展としました。

昔の沼津に会いに来ませんか？
会期 7月19日(土)～9月28日(日)
※会期中、常設展示の沼津兵学校コーナーを撤去しています。ご了承ください。



◎「そろくまつり」実施結果

昨年度から、江原素六についてより広く知ってもらうことを目的に開催している「そろくまつり」ですが、今年は江原素六の命日である5月19日が月曜日なので、前日18日(日)に開催させていただきました。好天に恵まれ、約700名の方々がご来館くださいました。ありがとうございました。

また、社団法人江原素六先生顕彰会、金岡婦人学級の皆様、力作を出品してくださった金岡・沢田・門池・大岡南各小学校の先生・児童の皆様、竹細工教室を開いてくれた「おしえて名人」の皆様、その他多くの方々に多大なるご協力を頂きました。ありがとうございました。

〈実施した催事〉

- もちつき・すいとん 無料提供
 - 日吉太鼓演奏
 - 素六音頭披露
 - 体験コーナー
 - 竹細工教室
 - 房楊枝作り体験
 - 昔の遊び体験
- 竹馬・コマ回し・お手玉など

◎夏休み企画のお知らせ

〈戦争史跡めぐり〉

市内に残る戦争の跡を見学して「戦争」と「平和」について考えましょう。

8月7日(木) 対象 中学生

8月9日(土)、10日(日) 対象 親子

※8月9日は特別ゲストとして、沼津戦時疎開学園の疎開児童の方々が、当時の思い出をお話してくれます。

〈戦時中の暮らしを体験しよう〉
戦時中の体験談を聞いたり、すいとんを作ったりしましょう。

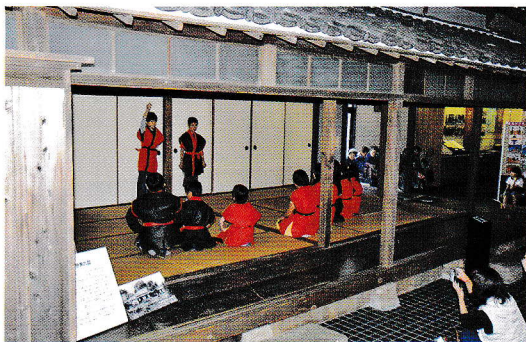
8月6日(水) 対象小学4～6年生
〈一日学芸員体験講座〉
学芸員ってなに？どんな仕事をするの？普段馴染みのない学芸員の仕事を体験します。

8月8日(金) 対象 中学生・高校生
※いずれもお申込み受付中。

沼津市明治史料館通信 第94号

編集 沼津市明治史料館
発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂三七一―一
電話 〇五五―九二―三三三三五
FAX 〇五五―九二―三〇一八
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/kurashi/sisetu/meiji/index.htm



寸劇「そろく物語」の様子

■観覧会「沼津兵学校」
昭和15年作品 監督 今井正
■特別展示
「子どもたちの見た江原素六」
金岡・沢田・門池・大岡南の各小学校で実施されている江原素六学習の成果である児童の作品を館内江原素六コーナーにて展示しました。

■寸劇「そろく物語」
金岡小学校5年生有志11名が、昨年度の江原学習の成果を寸劇形式で発表してくれました。普段は上げられない江原邸を舞台上に熱演してくれました。